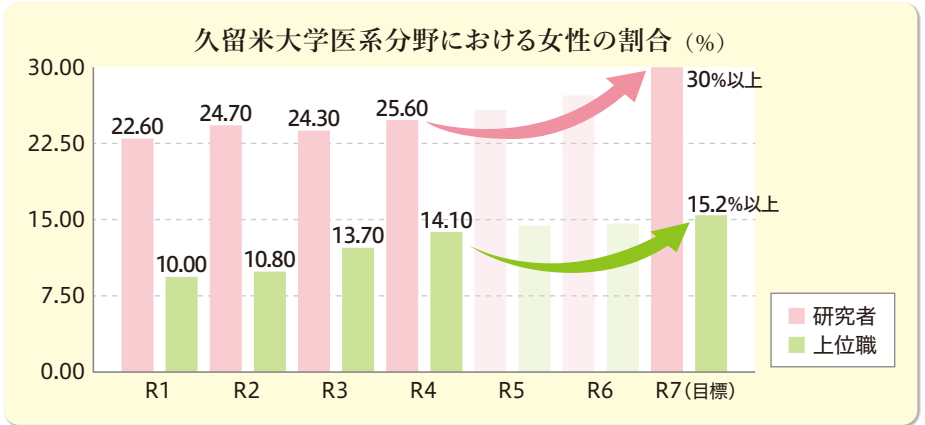


荒井 功先生(副学長)

KG-PROJECTの目標



第3回 ダイバーシティ・インクルージョン(DI) Day Report

5月20日に第3回 DI Dayを完全オンラインで開催しました。

第1部は、座長に病理学講座の三好寛明准教授と公衆衛生学講座の中尾元幸准教授を迎えて、令和3年度内村助成金女性研究者枠採択者による研究発表を行いました。

第2部は、座長に免疫学講座・国際医学担当の溝口恵美子教授を迎えて小安重夫先生(理化学研究所・理事)による「ダイバーシティ：研究の裾野を広げるために」の講演会が行われました。



最後に、令和3年度内村助成金女性研究者枠優秀賞の発表があり、神経精神医学講座・講師の松岡美智子先生が受賞されました。松岡先生の研究テーマはヤングケアラーに関するもので、松岡先生は受賞の喜びを述べられた際、「自分が今子育てをしている経験から研究テーマの着想に至った」と述べられました。



女性研究者紹介



しもかわしょうこ
下川 尚子先生
(脳神経外科学講座)

KG-PROJECTの女性研究者に限定した助成制度の一つである「令和3年度データ入力補助者・解析補助者の派遣制度」を利用された下川先生を紹介いたします。



佐賀医科大学(現在の佐賀大学)卒業です。15年間聖マリア病院に勤務しましたが、その時に多くの久留米大学卒の先生達と一緒に働きました。専門は小児脳神経外科で、日本脳神経外科学会のダイバーシティ推進委員会委員長をしています。

子どもは社会人となり育児時代は懐かしく昔のことになりました(笑)。現在は85歳を過ぎた両親と同居しています。二分脊椎などがライフワークですが、最近は小児軽症頭部外傷時CT撮像や鎮静MRI検査にこだわっています。



●趣味:水泳 バタフライを頑張っています

研究者によるリレー・コラム ④

自分達は団塊ジュニア世代と言われている。その名の通り両親が団塊世代である。男性をオトコ、女性をオンナと呼び「オトコは仕事、オンナは家庭」といった家庭像が当たり前の社会の中で育った。テレビドラマでも漫画でもそれが当たり前として描写されていた。

団塊世代は確かに素晴らしい。そして今の社会の礎となっている。しかし社会は成熟し、思想は変化する。そんな中、しみついた思想や考え方はなかなか変えられないものだと思う。

一方で、思想は変えられなくても行動は容易に変えられる。自分の思想は社会念慮と乖離してきていることをできるだけ理解して行動に移すよう心掛けている。我々が行動変容することで、次世代の思想が、より成熟した社会に適応するようになってくれると幸いだ。そのころにはサザエさんもきっと海山商事に就職しているに違いない。



寺田 貴武先生
(産婦人科学講座)

